「チョコレートタッチ」とSDGs

庭窪小学校　三年　石川　聖真

題名を聞いたとき「タッチしたら、チョコレートになるのかな？」と想ぞうしてワクワクした。ぼくも、おやつが大好きだ。だから、ジョンの気持ちがわかる。でもお母さんがチョコレートになったとき、かなしくてかなしくて、どうにかしたくなった。だってぼくは、お母さんのことが大好きだから。この本を読んで「家族」のこと、「友だち」のこと、「ものをむだにしない」こと、それと、「チョコレート」のこと…たくさんのことを考えた。

ぼくは食べるのが大好きだ。小学校のきゅう食も大好きだ。でも二年生の三月に、コロナウイルスにかかってしまった。それで学校を休んだ。少し元気になってきて、どんなきゅう食か気になってきた。それでアイパッドで小学校のホームページを調べた。すると、ぼくの特に大好きなきびなごのからあげだった。「コロナになっていなければ食べられたのにな〜おかわりもしたかったな」と思った。だから、ジョンに教えてあげたい。「ちゃんと食べないと、作ってくれた人がかなしくなるよ。のこしたら、捨てられるんだよ」って。きゅう食は、毎日メニューがかわって、栄ようもいっぱいあるのに、のこすのはよくない。この話をしていたら、ぼくの六年生のお兄ちゃんが、「聖真の考えていること、SDGs やな。ぼく、小学校の出前じゅ業で五年生の時に習ったで」と教えてくれた。ぼくも、そのことばをテレビで聞いたことがあった。アイパッドで調べたら外む省というホームページがあった。むずかしかったからもっと調べると、「キッズ外む省」というホームページがあって、そのことが書いてあった。ぼくの考えていたのは、「食品ロス」というみたいだった。それを見ても、やっぱりジョンにのこすのは、「だめだよ」と教えてあげたい。

お母さんが、チョコレートをおやつに出してくれた。あまくておいしい。箱のうらの、原料を見たら「カカオ」と書いてあった。アイパッドで調べたけど、「カカオの実」と「チョコレート」が、ぼくにはつながらなかった。ユーチューブでもっと調べたら動画があった。カカオの実を収かくしている子はアフリカの子だった。だいたいぼくやジョンと同じ年で、カカオの実が何になるのか知らなかった。すごくきけんで、こんなにきびしい中で取っていたことも知らなかった。学校にも通えていなかった。自分やジョンはゆたかな中で生活していると思った。今までそんなことを考えたこともなかった。ぼくにとってはふつうの「学校で勉強する」ことを、みんなが出来てほしい。他にも大好きなお母さんがチョコレートになるのはいやだし、友だちとも仲良くしたい。全部ぼくが本を読んで感じたことだ。

本のさい後に、この話が七十年も前に出版されたと書いてあった。ぼくはびっくりしてしまった。今の時代でも考えることがいっぱいあったからだ。それに「チョコレートタッチ」はぼくがはじめて読んだ外国の本だ。これからもいろんな本を読んでみたいなと思う。

「おかあさんのそばがすき」を読んで

八雲東小学校　四年　徳　歩睦

ぼくは犬が大好きです。かわいいし、遊び相手になってくれるからです。ぼくのいとこの家でも犬をかっていましたが、一年半前にこの世を去ってしまいました。ぼくが赤ちゃんのころから遊んでかわいがっていたので、とても悲しかったです。

この本は、作者が子犬をかうことから始まります。その犬は、かい主であるお母さんのことが大好きです。いつもお母さんのそばにいました。病気になっても、年をとってもお母さんのそばにいましたが、病気が治らず、最後はお母さんのうでの中でこの世から旅立ってしまうというお話です。

ぼくがこの本を読んで心に残った場面が二つあります。一つ目は、お母さんが犬と会話しているところです。初め、どうして人間が言葉の話せない犬と会話ができるのだろうと思っていましたが、「人間の耳は不思ぎな耳で、聞こうとする心がなければ聞こえていても何も聞くことができず、ぎゃくに聞こうとする心があれば、言葉がなくても相手の心の声がしっかりと聞こえてくるのです」と書いていて、なるほどと思いました。なぜなら、ぼくもいとこの家に行った時、犬が「おかえり！」と言ってすごくしっぽをふってよろこんでくれるように感じたことを思い出したからです。

二つ目の心に残った場面は、犬が足を動かすことができない病気になっても、がんばってお母さんのそばにいるところです。題名にもある通り、この犬は「お母さんのそばがすき」なことがとても良く伝わってきました。

この本を読んでぼくは、犬のやさしさや犬を育てることの大変さを学びました。犬は人間よりとしを取るのが早く、１さいで人間の１８さいになり、その後も１ねんで４さい分ずつとしをとるそうです。最近いとこの家で新しくかいだした赤ちゃんの犬もあっというまのスピードでぼくのとしをおいこしていくことを知りました。前にかっていた犬とは、コロナウイルスがはやってしまい、あまり会いに行けないまま、この世を去ってしまったのでぼくはすごく悲しくてくやしかったです。だから、新しい犬にはもっといっぱい会って、会える日を大切にしてもっといっぱい遊んでもっといっぱいさん歩をしてたくさんの思い出を残したいと思いました。それがぼくにとっても犬にとっても一番幸せなことだとわかったので、いとこにも教えたいし、ぼくも犬を大切に育てようと思いました。この本を見て人の大切さも教わりました。この世を去ってしまった犬にこの思いがとどいてほしいです。